

金ヶ崎橋新設求め一丸

早期実現目指し運動



江刺地域と金ヶ崎町を結ぶ金ヶ崎橋の新橋建設を求め、同地域の自治組織や企業、団体などで組織する「奥州・金ヶ崎大橋建設促進江刺会議」が29日、発足した。江刺岩谷堂のお休み処えさし藤原の郷レストハウスで総会を開き、役員や規約、事業計画などを承認。金ヶ崎町側にも働き掛けながら早期実現に向け機運を高め、民間レベルでの運動を二丸となって広げていく。(河東田ひかり)

江刺に促進会議発足

一般県道江刺金ヶ崎線金ヶ崎橋は、1996(昭和36)年の供用開始以来約60年が経過。老朽化が進み、幅員も

奥州・金ヶ崎大橋建設促進江刺会議の設立総会

狭く歩道がないことから、大型車両のすれ違いや歩行者・自転車の通行が危険な状況だ。奥州市や金ヶ崎町は毎年、県に仮称・新金ヶ崎大橋の新設を要望しているが、具体的な動きはない。住民サイ

ドから運動を展開し、建設実現のための大きな力にしていこうと江刺で検討が始まり、今年4月に同会議設立準備会が発足した。同会議は江刺地域の振興会や企業、団体の代表者、県議・市議ら

37人で組織。事務局は稲瀬地区センターに置く。会長には、江刺地域振興会長連絡協議会長で岩谷堂地区振興会長の広野雅喜氏が就いた。

総会の冒頭、広野会長は「昭和の時代から架け替えや歩道の設置をお願いしてきたが、実現に至っていない。金ヶ崎町とも力を合わ

せ、何とか思いをかなえたい」と協力を呼び掛けた。

今後は「奥州市・金ヶ崎町の未来の限りない地域発展の架け橋を!!」を活動テーマに、国や県、関係機関への請願、陳情を行っていく。物流・交通量などの調査も実施。各団体などからの協賛金を基に、事業を展開する。